

京都産業大学

ことばの科学研究センター

2023 年度第 7 回研究会

2024 年 1 月 24 日（水）14:00～16:00

4 号館 2 階総合学術研究所

リーダーコーパスの構築・分析

「読みやすさ」を測る指標の確立を目指して

加野 まきみ（ことばの科学研究センター員・文化学部教授）

従来、英文の読みやすさを評価するには、いくつかの指標が用いられてきたが、これらの評価指標が同程度であっても、読み手、特に英語学習者にとっては「難しい」と感じるものと「読みやすい」と感じるものがある。本研究では、学習者が学習の過程で読む様々なリーダーを収集したコーパスを構築し、語彙レベル、語法・意味の多様さ、文の構造の複雑さなどの観点から比較・分析し、「難しさ」の要因となり得る言語的特徴は何なのか解明を試みる。

天孫降臨の主導者—『日本書紀』「神代巻」の書き換え—

森 博達（ことばの科学研究センター員・京都産業大学名誉教授）

天孫降臨の主導者は、「神代紀」の一書（異伝）では天照大神とされるが、正文では高皇産霊尊である。この一書の表記と文章は、文武朝に綴られたβ群の特徴をもっている。

- 一方の正文は倭習が少なく、元明朝に加えられた巻 30「持統紀」と共通する文体もある。
- 投影論の立場からすると、天照は持統であり、皇孫は軽皇子(文武)である。他方、高皇産霊は藤原不比等であり、外孫は首皇子(聖武)となる。高皇産霊尊を主導者とする天孫降臨神話は書紀編修の最終段階（714 年以降）で加筆され、正文とされたのだ。